



ふれあい



盛岡市 米内浄水場の枝垂れ桜 (編集長 島岡理撮影)

【基本理念】

高度急性期医療を推進する県民に信頼される親切であたたかい病院

- 目次 -

年度始めのごあいさつ「今、看取りを考えよう」	院長 望月泉 ……2
新年度を迎えるにあたって	紫波地域診療センター長 小野満 ……3
センター長2年目のごあいさつ	沼宮内地域診療センター長 川村実 ……4
退職のごあいさつ「かたじけなし」	前統括副院長 關博文 ……4
退職のごあいさつ「素晴らしい中央病院」	前事務局長 村田幸治 ……5
初期研修医臨床研修終了式を終えて	業務企画室主任 水堀路子 ……5
アンケートによる入院患者さん満足度調査	看護部次長 林本郁子 ……6
中央病院では「公衆無料LAN」が使えます	業務企画室主査 西野謙次 ……6
「なでしこサロン」開催のおしらせ	OB看護師 佐々木典子 ……7
平成26年度盛岡地域県立病院運営協議会を開催して	総務課長 佐藤明 ……8
編集後記	広報委員長 島岡理 ……8

【行動指針】

- 1 良質な医療の提供
- 2 優れた医療人の育成
- 3 地域医療機関への診療支援
- 4 救急医療の充実
- 5 災害医療の体制整備
- 6 臨床研修体制の充実
- 7 健全で効率的な病院経営

※ 広報誌「ふれあい」は1,700部を作成し、県民、連携医療機関、行政機関等に岩手県立中央病院の情報をお届けしています。

「今、看取りを考えよう」

院長 望月 泉



2014年4月、年度はじめにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。わが国は戦後医療・医学の進歩と衛生環境および食料事情の改善などにより世界一の長寿国となりました。1960年には5.7%であった高齢化率（65歳以上の高齢者人口の総人口に占める割合）は2010年には23.1%、さらに団塊の世代が75歳以上となる2025年には高齢化率は30%を超え、このままの出生率だと2060年には総人口が9,000万人を割り込み、高齢化率は40%近くなると想定されています。世界に類のない未曾有な高齢社会を迎えることになり、同時に多くの人々が亡くなるいわゆる「多死社会」となります。「いのちの終焉は畳の上で家族に見守られて終わりたい。」と多くの日本人は願っています。厚生労働省の調査によると、自宅で最期を迎えたいという人は70%以上で、医療や介護の必要度合いにもよりますが、多くの人々が自宅で看取られたいと希望しながら、現実的には、医療機関になってしまいます。亡くなられた場所では、1960年には病院での死亡が18.2%、自宅が70%でしたが、高度成長社会、核家族化、医学の進歩にともない、2007年には病院での死亡が79.5%、自宅が12.3%と完全に逆転しました。

死を迎えるに当たり、身体的な生命の終わり（脈がなくなった、呼吸が止まった、瞳孔が散大した）は誰もが目に見える形の現象であり、「看取り」とは残される人、愛する家族、友人がその人と共に歩んだ全人生を看取ることです。看取られる人は苦しさから解放されますが、残される人はそれを乗り越えて生きていかなければなりません。病院での死は異常な死、本来あってはならない死です。なぜなら病院は助けるために全力を尽くす場であり、“延命処置”、“生命監視装置”が装着される場合が通常です。過剰で不必要な治療が行われている可能性があり、さまざまな延命治療を推し進めてきた医療現場は自然で穏やかな死への道筋を見落としてきたのではないのでしょうか。

患者さん本人が自宅で最期を迎えたいと思っけていても、実際に容態が急変すると多くの方は動揺し、様子を見かねて家族が救急車を呼んでしまい、結果的に医療施設で亡くなるというケースもよくあります。在宅看取りには本人と家族、医師、看護師の連携がきわめて重要で、医師からは現在の状態はもちろん予測される身体の変化のようすの説明を受け、状況に応じた連携先についても整理しておく必要があります。大事なことは本人と家族が死を受け入れる「心の準備」です。患者が在宅で亡くなられた場合、家族はやり遂げたという感想をいだかれます。家族にはお別れは悲しいことではありますが、悲しみはいつかは癒され、家族の成長の糧となるような心から感動できる経験です。自宅で家族だけで看取することは十分可能です。死は医療の問題ではなく、社会の問題で繰り返される人間の文化だと思います。私たちが小学校に入学した1960年代はじめは、多くの人々が自宅で家族に見守られながら穏やかな死を迎えました。たしかに在宅は家族の負担が大きく、一人暮らしでさまざまなサービスが必要となれば費用もかかります。地域ぐるみで助け合い、医療や介護がかかわり、行政がサポートし、社会を維持していく必要があります。これが求められている地域包括ケアのあるべき姿であり、是非とも構築していかなければならないと考えます。



以上、年度はじめにあたりのごあいさつとさせていただきます。

新年度を迎えるにあたって

紫波地域診療センター長 小野 満

もう春がくると思っていた矢先にドカ雪が降り、まだいたのか冬将軍！しかし春の暖かさには勝てず、1日で積もった雪もきれいに溶けて退散していきました。

紫波地域は昔からC型肝炎の患者さんが多くおりまして、県立紫波病院の時代より岩手医大一内科の肝臓班の先生達が治療にあたっておりました。キョウミノC大量療法やインターフェロン連日投与法等で大変苦勞してC型肝炎の治療に専念してきましたが、その治療効果は期待するほど良好ではありませんでした。その後も薬剤の開発が進み、インターフェロン療法でも85%強のHCVウイルス消失が期待できるようになってきましたが、副作用が強く出て治療継続が困難な患者さんもおりました。



しかし昨年秋よりインターフェロン・フリー療法（経口2剤）によるC型肝炎の治

療が開発され、インターフェロン療法に匹敵する治療効果が期待されます。またほとんど軽微な副作用しかないので患者さんには大変喜ばれております。当センターでもインターフェロン・フリー療法（経口2剤）を昨年12月より導入し良好な経過をとっております。これからも新薬が出てくる予定ですので、紫波地域でのC型肝炎の撲滅も夢ではなくなってきました。



最近のC型肝炎の治療についてご相談したい人は当センターにご連絡ください。

センター長2年目のごあいさつ

沼宮内地域診療センター長 川村 実

2015年4月にて岩手県立中央病院附属沼宮内診療センター長としての2年目を迎えます。当センター通院している多くの患者さんは高血圧・糖尿病の治療で来院して来られますが、この治療の基本は運動や食生活の改善であり、これを怠るとどんなに優れた薬を使用しても薬の効果は減弱ないし消失します。運動や食事のいわば当たり前の生活習慣の改善であります。この当たり前が高血圧、糖尿病発症の予防・治療に加えて認知症、骨粗鬆症やガンなどの病気の発症を防ぎます。特にこの沼宮内地域の方々には冬季の血圧の悪化とともに冬季の血糖も悪化していることがわかりました（岩手県立病院医学会雑誌の2015年第1号に掲載）。冬季の運動不足に対する対策を町役場の方々とともに検討したいと思っています。



内科常勤医として中野美紀先生が勤務していましたが、4月からは高橋清香先生に変更となります。高橋先生（旧姓家村）は沼宮内出身であり、センターが皆様に一層親しみのある病院となることに貢献していただけるものと期待しています。高橋先生は現在子育て中でその支援プログラムで勤務していますので、基本的には午前中の勤務となります。常勤内科医は1名のみですので、午後からは内科不在となりますので御注意ください。



当センターが岩手町休日急患診療当番日には外科医1名で対処してきましたが、今年度から内科医も参加して2名体制と充実致しました。当番日には医療相談窓口として御利用ください。今後のセンター運営について皆様からお気づきのところがあれば御提言いただければ幸いです。

かたじけなし

前統括副院長

関 博文

岩手山を中心にすえた岩山からのパノラマ写真を、数年前にいただいた。
とても気に入っている。



細かい字の書類は見るのも嫌になった。
でも遠くはよく見える。
今日も岩手山をはっきり見ることが出来る。驚マークも。
賢治が画いた山も好きである。
啄木は詠んだ
ふるさとの山に向かいて
言うことなし
ふるさとの山はありがたきかな

中央病院の各病室から望む岩手山の姿が、どんなにか多くの人たちに安らぎを与えてきたか計り知れない。病める人たちにも、私たち職員にも。
医療というこの厳しい仕事をこの病院で長く勤められたのも、あるいは岩手山のお陰かもしれない。

素晴らしい中央病院

前事務局長 村田 幸治

中央病院での勤務は3回で、通算9年間お世話になりました。3回目は大震災の翌年から事務局長として、望月院長先生の下で当院の使命と役割を果たすべく病院運営に関わらせていただきました。特にも、最後の3年間は全国学会の開催をはじめ、沖縄県立中部病院や島根県立中央病院との交流事業の推進、病院機能評価や特定共同指導など、一方では刑事事件への対応はとても辛い経験でしたが、やり遂げた達成感と中央病院の組織力を実感することが出来ました。中央病院の素晴らしさは、院長先生の強い決断力とリーダーシップ、そして優れたスタッフで組織化された部門間の連携の良さとそれを支える事務局の存在です。当院の事務職員は、人間性に富み豊かな経験を有する優秀なスタッフですので、これからも皆様から頼られる良き相談相手になると確信しています。最後に、中央病院での勤務は充実し楽しく仕事のできた最後の3年間であり、多くの職員の皆様に支えられてきた私の40年間でした。ありがとうございました。



・経歴 / 村田幸治 参事兼事務局長 (祭り大好きな久慈市出身)

昭和50年4月に久慈病院に採用となり、東和病院事務局長、大船渡病院事務局長を経て、平成24年4月に中央病院事務局長、平成26年4月参事兼事務局長に就任。

「初期研修医 臨床研修修了式を終えて」

業務企画室主任 水堀 路子



平成 27 年 3 月 20 日、平成 26 年度臨床研修修了式が行われ、当院での 2 年間の臨床研修を終えた初期研修医 19 名が晴れの日を迎えました。

修了証書授与を前に、まずは修了報告会。これまでお世話になった多くの指導医・メディカルスタッフを迎えて 19 名それぞれが 2 年間の思い出・これから進む道・将来の展望について熱く、時には涙、時には笑いを誘いながらの報告でした。そして彼らの成長を公私において見守ってきた指導医からのコメントも暖かいものでした。2 年間で素敵な師弟愛が育まれていたのでしょう。

そして修了証書授与。報告会から一転、厳かな雰囲気の中一人ずつ病院長より修了証書を受け取ります。席に戻り、受け取った修了証書感慨深く見つめる姿が印象的でした。

2 年前、地元岩手に少しでも恩返ししたいと当院を選んだ者、自らの成長を貪欲に願

い縁もゆかりもない盛岡での初期研修を希望した者。様々な思いを胸に当院で医師としてのスタートラインに立った彼ら。その時からお互いが良き親友であり、良きライバルだったのでしょう。研修医室で見かける彼らは、一人でいる時の多くは医学書等を夢中に読んでいますが、数人集えばいつも楽しそうに会話をしている姿がありました。「個性的」と言われた 19 名ですが、

仲間のピンチには物凄い結束力を感じたこともありました。リーダーを中心に羨ましいほどの「チーム」でした。

全国から集まってきた 19 名。当院で後期研修を行う 6 名を除き、13 名は全国に旅立っていきました。19 名がそれぞれに活躍することを願っています。そして、後輩の現研修医達も彼らに続くよう、今後も全力でサポートしていきたいと思います。



中央病院では「公衆無線 LAN」が使えます。

業務企画室主査 西野 謙次

当院では、患者さんをはじめとする病院来訪者の方への利便性向上の一環として、公衆無線 LAN によるインターネット接続サービスを開始しました。

利用可能な場所は、1階の中央待合ホールとひまわり図書室の2箇所で、お手持ちの無線 LAN 機能を持つパソコン・スマートフォン・タブレット等で、どなたでも無料で利用できます。

なお、接続に関するサポート、機器の貸し出しや電源の供給は行っておりませんのでご了承ください。また、接続方法やご利用に当たっての注意事項等は、院内に掲示してあるご利用案内をご覧ください。マナーを守ってお使いいただくようお願いいたします。



～がん患者と家族のサロン～

『なでしこサロン』開催のお知らせ

OB 看護師 佐々木 典子



この度、中央病院で仕事をして参りましたOB看護師の有志で、がん患者さんやご家族の皆様にご利用いただけるサロンを、ボランティアとして開設することにいたしました。

サロンの名称は『なでしこサロン』で、毎週木曜日 10 時 30 分から 15 時まで外来・4 階の第 2 会議室で開催しております。

中央病院ではすでに「メディカルカフェ」が活動しておりますが、私たちのサロンは、患者さんやご家族の皆様が診療や治療の待ち時間やあい間を利用して気楽に立ち寄りいただき、ほっと一息しながらの時間を過ごしたり、仲間同士で語り合ったりすることのできる、気の置けない和やかで温かな場所（サロン）になれるようにと思っております。

スタッフの私たちは、看護師としての経験を基にしながら、ご利用される皆様が不安なこと、心配に思っておられる事やそれぞれの思いを語りあったり、またお互いの経験談等を話したりお聞きする中から、少しでも気持ちが前向きになれるようなお手伝いが出来たらと願っております。

まだ行き届かないところも多い出発ですが、ご利用いただく皆様と共に温かなサロンを創って行けるよう努力して参りますので、どうぞよろしく願いいたします。

5 月は、7 日、14 日、21 日、28 日、の木曜日、開いております。

お気軽に『なでしこサロン』にお立ち寄りください。

スタッフみんなで心からお待ちいたしております。



